

を続けている。部会の戸数や面積は近年停滞しているが、化学肥料や農薬の節減意識は農業者全般に高いという。

〈取材後記〉

訓子府町を訪れたのはおよそ一〇年ぶり。空き店舗が少し目につくようになったが、電線が地中化された市街地の街並みはきれいだ。町の将来像が『「ちよつといいね!」がたくさんあるまち』というところで、訓子府農業の「ちよつといいね!」を少しでも紹介できればと思いつながら取材した。十分紹介できてはいないが、地域振興や住民福祉などの分野を含めた「ちよつといいね!」の積み重ねが町の発

展につながるに違いないと感じた取材であった。

訓子府町役場の皆様には、取材の対応や資料、写真の提供、原稿の確認など多くのご協力をいただきました。誌面を借りてお礼申し上げます。

特別研究員

三津橋 真一



高級菜豆

研究所だより

本年度六月末現在の当研究所の調査研究課題につきましては、前号の「研究所だより」で紹介しましたが、その後、新たに次の課題を受託しました。

業務・研究課題名

農村集落機能維持活動事例調査委託業務

期限 二〇二三年二月

委託者 北海道

人事異動 (9月30日付)

△退 職▽

専任研究員 井上 淳生